

令和2年度 特別支援専門部活動報告

＜上山高等養護学校の実践について＞

レポートタイトル 職業科 被服Ⅰグループ 「上高養バザーに向けて、よい製品を作ろう」

1 実践にあたって

本校では学校教育目標の「社会的・職業的に自立する人を育てる」を受けて、「働く人になる」のスローガンの基に、生徒・職員が一丸となり学習している。週10時間の職業科学習の時間には、全校生75人が10グループのいずれかに所属し、それぞれの学習に取り組んでいる。

その中から被服Ⅰグループの実践を紹介する。「上高養バザー」に向け、お客様に喜ばれる製品にするためにはどうしたらよいか、またお客様にはどう接すればよいかを考える場面を設定しながら学習してきた。バザーを通して、作る喜びや成就感・達成感を味わうことで、自信や自己有用感ひいては働く意欲を喚起できるのでないかと考え、実践に取り組んできた。

2 活動より

被服Ⅰグループ（1年生）では、布バッグ、ナイロンバッグ、ラミネートポーチ、枕カバー等を製作している。

バザーに向けて、お客様が製品を選ぶポイントである「生地の手柄」「形・デザイン」「サイズ」「縫い目」のうち、特に「縫い目」に気を付けながら製作した。縫製は、2～3mmの端ミシンで縫うことを目標にしている。最初の頃は、端ミシンが5mmになったり、目が落ちたりすることがあった。どうすれば2～3mmの端ミシンになるか、どこを見て縫うとよいか、布のどの部分をミシンのどこに合わせるとよいか練習することで、生徒たちの縫製の技術が向上し、製品として販売できる仕上がりになった。

3 まとめ

今年度は、コロナ禍のため例年行っている「山形市役所バザー」が中止となり、「上高養バザー」も一般公開をせずに保護者や家族だけが参加するバザーとなった。1年生は初めてのバザーということで緊張している様子だったが、徐々に気持ちがあほぐれ、練習を生かした接客ができた。限られた人数のお客様だったが、製品の多さや出来映えを褒めていただき、達成感を味わうことができていた。今回の体験をこれからの学習に活かし、「働く人になる」ことを目標に今後も職業科の学習に取り組めるように指導していきたい。

＜鶴岡高等養護学校の実践について＞

レポートタイトル 職業学習 「バザーで製品を販売しよう」

1 実践にあたって

本校の職業科では、週12時間の職業学習を設定し、農芸班（野菜グループ・草花グループ）窯業班、被服班、クラフト・サービス班の4班に分かれて授業にあたっている。

どの職業班も「バザーで製品を販売しよう」という単元が位置付けられており、生徒たちはこのバザーに向けて日々製品づくりに取り組んでいる。バザーでの販売活動は自分たちの製品がどのように評価され、お客様が購入したくなる製品に仕上げるにはどうするかを考える貴重な体験の場となっている。また、販売活動の成就感とともに、お客様に喜んでもらえるように、より質の高い製品作りを目指すなど、その後の学習活動への意欲付けにつながる活動にもなっている。

2 活動より

計画では、加茂水族館、三川イオン、庄内観光物産館など、校外でのバザーを予定していたが、この度のコロナ禍での状況から校内のみでのバザーとなった。その中で、社会福祉協議会「にこふる」、生活協同組合共立社「コープ千石」等の御協力により置き販売に力を入れた。クラフト・サービス班が中心となり、それぞれの班から製品を預かり、生徒が事業所と電話でやりとりしながら定期的に製品を卸しに行っている。また、今年度から庄内総合支庁売店内「こしやたな屋」で展示販売も行った。高産連よりいただいた調査研究費で購入した校名入りののぼり旗を掲げ、多くの方々に本校の活動を啓発する良いきっかけとなった。今後のバザーでも活用していく。

3 まとめ

コロナの状況が収まらない中、不特定多数の方と対面で接する環境になるバザーでは、十分な感染防止策をとり、お客様の忌たんのない声に耳を傾けてきた。その中で多くの励ましを受け、社会の役に立っているという誇りや自信にもつながっていくと感じている。これからも有効な販売活動ができるように創意工夫をしたい。また、生徒たちのアイディアや主体的な取組を大切にした製品づくりを通して、一人ひとりの「働く力」を高めていく。